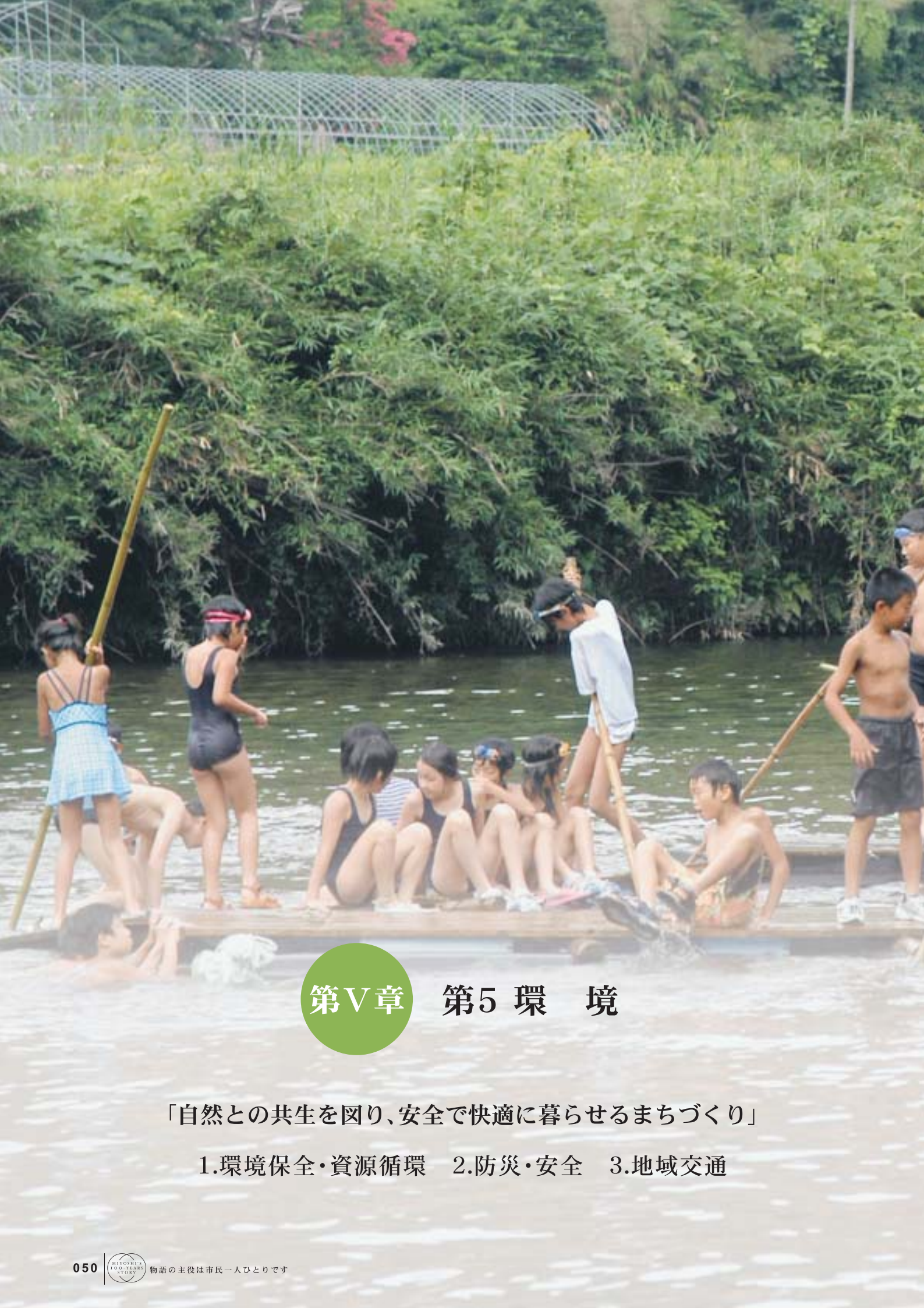




第Ⅴ章 第5 環 境

「自然との共生を図り、安全で快適に暮らせるまちづくり」

1.環境保全・資源循環 2.防災・安全 3.地域交通

みよし百年物語

— 五十年、百年後の理想の姿 —

第五話 環 境

人びとは、自然と共に生き、恵み豊かな里山と清らかな川

そして人と自然とのふれあいを大切にする心を守り

育みながら、心豊かに暮らしています

“もったいない”という気持ちを大切にし

子どももおとなも限りある資源を生かして

地球にやさしい暮らしをしています

このまちは、みんなが笑顔で気軽に声をかけあい

災害・犯罪・事故で生命や財産が奪われることがなく

安心して暮らしています

いつでも、どこでも気軽に安心して移動ができ

他の地域とも交流が活発で、まちは活力で満ちあふれています

三次は、安らぎとぬくもりの中で、だれもが

「住んでよかった」と感じるまちです

第5

環境

自然との共生を図り、 安全で快適に暮らせる まちづくり

まちづくりの目標

- 水資源を中心とした自然資源を保全するために、生活排水の処理を進めます。
【生活排水処理率】
平成16年度36%→平成26年度70%以上
- ^{※1}循環型社会を構築するために、一般廃棄物のリサイクルを進めます。
【一般廃棄物リサイクル率】
平成16年度28%→平成26年度40%以上
- 地域の防災力を高めるために、^{※2}自主防災組織の組織化を進めます。
【自主防災組織数】
平成26年度までに19組織以上
- 犯罪に強い地域づくり・環境づくり・人づくりにより、犯罪を半減します。
【刑法犯認知件数】
平成16年中599件→平成26年中“半減”
- 安全・便利で環境にやさしい交通体系を確立し、市内外の移動時間を短縮します。



※1 循環型社会

廃棄物の発生抑制や資源の循環的な利用などにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減された社会。

※2 自主防災組織

地域住民が自主的に連携して、平常時は防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出・救護、集団避難、避難所への給水給食活動などの防災活動を行う組織。

施策の体系

1.環境保全・資源循環

- (1) 美しい山、川、田園風景に配慮したまちづくり
- (2) 自然環境を生かした教育と学習の推進
- (3) 資源を大切にするまちづくり



2.防災・安全

- (1) だれもが安心して暮らせる災害に強いまちづくり
- (2) 相互の助けあいによる安全・安心なまちづくり

3.地域交通

- (1) 利便性の高い生活交通体系の確立
- (2) 広域的な高速交通体系の確立
- (3) 交通基盤づくり

第5 環境 Environment

1.環境保全・資源循環

“もったいない”の心を大切にした 環境と調和するまち

基本戦略

- 美しい山、川、田園風景を守り、すべての生き物が住みやすく、自然豊かな安らぎのある“ふるさと三次”をめざし、山林・河川・生態系などの自然環境保護の視点に立ったまちづくりを進めます。
- 貴重な水資源を守りながら活用する循環型社会^{※1}をめざした生活基盤の整備を進めます。
- “もったいない”の心を大切にして、ゴミの減量を進めるとともに、すべてのゴミ資源の有効利用^{※2}と自然エネルギー^{※3}を活用したエコタウンをめざします。

主要施策

(1) 美しい山、川、田園風景に配慮したまちづくり

- 環境保全に関する啓発と活動の推進（ボランティアの育成等）
- 自然資源を保全・活用した美しいまちづくり
- “花いっぱい運動”^{※4}など、地域の美化・清掃活動の促進
- 生活排水処理の推進（公共下水道・浄化槽などの普及による家庭排水の浄化の推進）
- 広葉樹林の育成など、美しい里山づくりの推進^{※5}
- 子どもが川と親しめる環境づくり（川遊び等）
- 減農薬・減化学肥料化による農地などの土壌や河川の浄化の促進
- 不法投棄などの防止策の強化

※1 循環型社会

廃棄物の発生抑制や資源の循環的な利用などにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減された社会。

※2 自然エネルギー

太陽光や熱、風力、潮力、地熱など、自然現象から得られるエネルギー。

※3 エコタウン

エコロジータウンの略。人々の生活と自然が調和・共生した環境にやさしいまち。

※4 花いっぱい運動

市民団体・グループなどが、身近な場所に花を植えたり、道路の沿道に花のプランターを設置したりするなどして行う美化活動。

※5 広葉樹林

桜、くすの木、けやきなどのように広く平たい葉をもち、秋には紅葉する木々により形成された林。木の周囲には多くの微生物が住み、土を耕したりきれいな水をつくる機能をもつ。

(2) 自然環境を生かした教育と学習の推進

- 自然保護に対する市民などの意識啓発
- 地域や親子による自然（里山・親水）体験学習の実施
- 環境教育の推進
- 山と川を生かした地域と都市との交流事業の推進
- ^{※6} 山のもつ公益的な役割（水源のかん養等）の情報発信

(3) 資源を大切にするまちづくり

- ゴミの減量と分別収集の啓発・推進
- 新たなリサイクル導入に向けた新技術の研究・開発の促進
- 徹底した省エネルギーの取り組みによる^{※7}温室効果ガスの排出の抑制
- 自然エネルギーの積極的な導入による化石燃料の使用の抑制



■ 鮎の放流



■ アイドリングストップ運動

第5 環境 Environment

※6 山のもつ公益的な役割
山林が果たしている、国土の保全や水資源の浄化、地球温暖化の防止、生物多様性の保全などの役割。

※7 温室効果ガス
二酸化炭素、メタン、フロンなど、地表から放射される赤外線を吸収し、太陽の熱を封じ込めて地表を暖める働きがあるガス（気体）。

2.防災・安全

みんなが安心して暮らせる 災害や犯罪に強いまち

基本戦略

- すべての市民が安全に安心して暮らせるように、「自助、共助、公助」の考え方を基本に、災害に強いまちづくりを進めます。
- 市民、地域と行政が、安全・安心にかかわるさまざまな情報を共有し、犯罪の抑止・防止機能を高めるため、地域ぐるみでの相互の助けあいによる犯罪に強いまちづくりを進めます。また、交通安全意識の向上を図り、交通事故件数の減少をめざします。

主要施策

(1) だれもが安心して暮らせる災害に強いまちづくり

- ケーブルテレビなどの活用による防災情報の迅速な提供
- 市民の防災意識の高揚
- 防火意識の高揚と常備消防・非常備消防の連携強化による消防力の充実^{※1}
- 自主防災組織の組織化の推進などによる地域防災力の強化^{※2}
- 市民・地域・行政の相互連携による防災体制の強化^{※3}
- 災害時要援護者への支援体制の強化^{※4}
- 避難施設の整備など、防災施設の充実



■消防教室

※1 常備消防・非常備消防

常備消防とは、市町村が単独又は共同で設置する消防本部・消防署などの常時消防に関する業務を行う消防機関をいう。非常備消防とは、非常時に消防の役割を担う消防団をいう。

※2 自主防災組織

地域住民が自主的に連携して、平常時は防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出・救護、集団避難、避難所への給水給食活動などの防災活動を行う組織。

※3 地域防災力

地域社会における災害に対する備えや災害時における初期消火や情報の収集・伝達、負傷者などの救出・救護や住民の避難誘導などの対応能力の総称。

※4 災害時要援護者

障害者や高齢者などで、災害時に特に支援を必要とする人。

(2) 相互の助けあいによる安全・安心なまちづくり

- ^{※5} ケーブルテレビなどの活用による地域の安全・安心にかかわる情報の迅速な提供
- 市民・地域の防犯意識の高揚
- 市民の自主的な地域安全活動の促進
- 生活上の安全に配慮した環境づくりの推進
- 各世代に応じた交通安全教室の開催などによる交通安全意識の高揚
- ^{※6} 消費者保護の推進（消費生活相談の充実）



■地域安全マップづくり①



■地域安全マップづくり②

第5 環境 Environment

※5 ケーブルテレビ
有線を利用したテレビ放送の配信システムで「CATV」ともいう。三次市では、株式会社三次ケーブルビジョン（愛称「ピオネット」）により、光ファイバーケーブルによる多チャンネル放送、高速インターネット接続、音声告知放送などの多彩なサービスが提供されている。

※6 消費者保護
悪質商法など、消費に係わる様々な問題から消費者をまもること。また、そのための取り組み。

3.地域交通

こころも地域もつながる 交通ネットワーク^{※1}

基本戦略

- 市民一人ひとりが安心して快適に生活ができるよう、安全で利便性が高く、環境にやさしい交通体系の確立をめざします。
- 三次市を中心とした交通ネットワークづくりを推進し、移動時間の短縮などにより、地域交流・広域交流を活発化します。

主要施策

(1) 利便性の高い生活交通体系の確立

- バス間の乗り換えやJR各線・高速バスへの接続に配慮した運行ダイヤ編成の促進
- 市民バスなどの運行ダイヤなどの情報提供の充実
- 地域間・市外との広域・幹線交通手段としての路線バスの利便性の向上
- 通院・通学・買物などの地域内移動の交通手段と路線バス・JR各線への接続手段としての市民バスなどの利便性の向上
- デマンド型交通システムの計画的導入^{※2}
- 観光客などの市内移動手段の充実
- 車両や乗り換え拠点施設などのバリアフリー化による安全性の向上^{※3}

※1 ネットワーク

網の目のようになった組織、系列、つながり。又は、複数のコンピューターを結び、データなどを共有して情報処理の効率を図るシステム。

※2 デマンド型交通システム

利用者の乗車希望や予約などのデマンド(要求)に応じて柔軟に運行する乗合バス・タクシーの総称。

※3 バリアフリー

障害者や高齢者などが生活を営むうえで支障になっている社会的、制度的、心理的な障壁(バリア)を取り除き(フリー)、誰もが暮らしやすい社会環境をつくろうという考え方。

(2) 広域的な高速交通体系の確立

- JR芸備線などの高速化推進と利便性の向上
- JR三次駅などの交通ターミナル機能の強化^{※4}
- 高速バスの利便性の向上
- 広島空港や中国地方の主要都市へのアクセス機能の充実^{※5}

(3) 交通基盤づくり

- 中国横断自動車道尾道松江線の整備促進
- 地域高規格道路江府三次道路の整備促進^{※6}
- 県道の管理権限の移譲による地域道路網の一体的整備の推進
- 安全な道路環境づくりの推進
- 旅客と貨物の複合的輸送など、新たな交通システムの研究



■中国横断自動車道尾道松江線
三次ジャンクション完成予想図



第5 環境 Environment

※4 交通ターミナル
バスなどの交通路線が集中し、発着する場所、拠点。

※5 アクセス
ネットワークや通信回線を使って他のコンピューターなどに接続すること。又は、交通の便、交通手段の連絡。

※6 地域高規格道路
高速交通体系の役割を補完し、地域の自主的発展や地域相互の交流促進などの役割を担う規格の高い道路。